

30E-pm07

タイ産植物 *Croton oblongifolius* 葉部から得た新規メガスティグマン配糖体
竹重 勇哉¹, ○川上 晋¹, 杉本 幸子¹, 松浪 勝義¹, 大塚 英昭¹,
Sorasak LHIEOCHAIPHANT², Duangporn LHIEOCHAIPHANT³ (¹広島大院医
歯薬, ²パヤップ大薬, ³チェンマイ大薬)

【目的】当研究室は天然物の基礎化学的研究の一環として、タイ産植物 *Croton oblongifolius* の成分研究を行っている。同植物はトウダイグサ科 (Euphorbiaceae) ハズ属 (*Croton*) に属する落葉低木である。同植物はタイで古くから消化不良、月経困難、赤痢等の治療薬で用いる他、同属の *C. sublyratus* も薬用に用いられている。また日本でも、同属のハズ (*C. tiglium*) のハズ油 (croton oil) が峻下剤として知られており、薬用資源としても興味深い植物である。

【方法・結果】*C. oblongifolius* の乾燥葉 1.08 kg をメタノールで抽出し、常法に従い n-ヘキサン、酢酸エチル、1-ブタノールで順次分配した。得られた 1-ブタノール可溶画分 16.4 g を Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィー、DCCC および HPLC を用いて分離、精製を行い、新規メガスティグマン配糖体 (1-3) を得た。その構造は NMR を中心とした各種分析機器を用いて決定した。これら新規メガスティグマン配糖体 (1, 2) の 9 位の立体化学については現在検討中である。

